

私は、以下に紹介します羽場久美子・青山学院大学名誉教授の発言支持します。

参考までに、ご紹介します。

詳しくは長周新聞 (<https://www.chosyu-journal.jp/kokusai/28603>) をご覧ください。

こしかわ好昭 (綾瀬市議会議員)

第3回シンポジウム「今こそ停戦を！Cease All Fire Now！」

での羽場久美子・青山学院大学名誉教授の発言 (2023年12月21日)

国際政治や紛争解決の専門家グループによる第3回シンポジウム「今こそ停戦を！Cease All Fire Now！」が21日、東京・永田町の衆議院第1議員会館国際会議室で開かれた。

世界国際関係学会 (ISA) アジア太平洋会長の羽場久美子氏は、今年世界各地で開催された国際会議に出席した経験を交え、「世界の大転換。今何が起こっているか？我々は何をすべきか？」をテーマに発言した。

世界の地域別人口割合では、米欧の15%に対して、アジア・アフリカ・ラテンアメリカは80%を占め、GDP (国内総生産) 予測でも、中国やインドをはじめとするアジア諸国が急成長し、数十年後には欧米の先進国と入れ替わる趨勢にあることを経済指標から明らかにし、「これらの新興国は戦争継続ではなく、停戦、平和、繁栄を求めている。200年に1度の大転換が起きるなかで、アメリカはその“歴史の必然”を軍事力で阻止しようとしている。それが現在、世界中で起きている戦争の背景にある」と指摘した。

また、「中国やインドが牽引するアジアは、過去1800年間、世界経済発展の中心にあったが、19世紀の欧米による植民地化によって搾取され発展を拒まれた。だが、第二次大戦後に植民地から解放されると再び成長に転じ、もはや2030年にはアメリカを抜くことが確実だ。だが、バイデン米大統領は、ウィルソンやルーズベルトの手法を踏襲し、『民主主義 vs 専制政治』という価値の同盟で世界を二分し、最大の競争相手である中国を排除するため、QUAD (日米豪印4カ国戦略対話)、QUAD プラス、AUKUS (米英豪の軍事同盟)、ファイブ・アイズ (米英、カナダ、豪州、ニュージーランドの軍事諜報網) など米英アングロサクソン主導の軍事同盟で封じこめようとしている。その最前線にある日本は、43兆円に防衛費を膨らませ、ミサイル配備を全土に進め、中国、ロシア、北朝鮮を封じこめるための歩兵の役割を担わされようとしている」と強調した。

「沖縄は、ミサイル配備ではなく、経済協力で東アジアの平和と安定を作ろうと動き始めている。沖縄を中心に中国 (14億人)、ASEAN (6・6億人)、日本 (1・2億人) を含む約20億人の経済地域ができる。私たちは中国やロシアに向けてミサイルを配備し、再びこの地域で戦争を起こすべきなのか？ ミサイルを突きつけあうのではなく、文化や経済協力による発展を目指す——それを自治体や市民の力でつくっていくことが今最も必要なことだ」と行動を提起した。